

令和7年8月15日

医療法人徳洲会 神戸徳洲会病院  
尾野 亘 病院長殿

## 神戸徳洲会病院 医療安全業務監査報告書

関西医科大学医療安全管理センター  
副センター長 宮崎浩彰

下記の通り、貴院に対する医療安全業務監査を行ないましたので報告します。

### 1. 監査方法

神戸徳洲会病院における医療安全に係る業務の状況について、病院管理者等からの聴取及び資料を閲覧する等の方法によって監査を実施しました。

- ・日 時：令和7年7月25日（金）13:00～16:30
- ・場 所：神戸徳洲会病院会議室
- ・監査者：宮崎浩彰（関西医科大学 理事長特命教授（医療安全担当））
- ・聞取り対象者：尾野 亘（病院長）、中島義和（副院長）、帛田美幸（看護部長）上野 正子 医療安全管理者（看護師長）、大島良康（副薬局長）

### 2. 監査実施項目

#### （1）改善措置命令に対する改善計画スケジュール

##### ① 医療安全文化の醸成

病院長が各診療部長との面談を定期的に行い、「診療体制指針」をもとに医療安全管理体制を網羅的に検討されていることを確認しました。医療安全管理部門の人員強化が図られ、後述する医の倫理委員会ならびに臨床倫理チームも機能しており、看護部など各部門の管理体制の改善と相俟って病院の医療安全ガバナンスは改善強化されているものと評価されます。

また、医療安全研修については、役職者を対象とした医療安全管理者養成研修が順調に進捗しており、全職員を対象としたチームトレーニングも予定されており、チーム力向上に資する実践活動の活性化が期待されます。

一方、医療安全管理部門は医師のインシデント報告提出率や転倒転落カンファレンスの実施率など複数の臨床指標を用いたモニタリングならびに改善活動を始めていることを確認しました。特に合併症や口頭指示におけるマニュアル非遵守は、医師が報告することにより振り返りから改善につながることを期待されるため、これらを含めた医師のインシデント報告数の増加対策は重点的に活動されることを期待します。

医の倫理委員会は外部委員も参画して隔月に開催されており、臨床倫理指針の策定から症例発表など個々の倫理的課題に至るまで丁寧に議論されていることを確認しました。特に各診療科の侵襲のある医療行為については網羅的にモニタリングが行われ、心血管カテーテル治療については外部の専門医2人にも評価を依頼するなど確実かつ詳細に検討されていることは大いに評価されます。高難度新規医療技術についても「高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する規程」が整備され、高難度新規医療技術評価対象となる医療技術について把握する仕組みが構築されていることを確認しました。また、高難度新規医療技術に該当しない場合は「診療科体制指針」「新規医療技術」について医の倫理委員会審議事項となることも確認しました。引き続き職員の医療倫理に対する感度を高め、個々の患者の生き方や意思に配慮した適正な医療が提供され続けることを期待します。

また、各部署から委員が選出された医療の質改善委員会が定期的で開催され、職種横断的な問題について検討されていることを確認しました。

さらに病院のホームページに医療事故調査結果が更新されており、医療安全に係る改善の実施状況を2カ月ごとに掲載するなど、活動結果が適切に公開されていることを確認しました。引き続き調査結果の家族への説明と謝罪、情報公開が適切に行われることを期待します。

## ②透明性のある医療の提供

診療情報管理士1名が増員となり、診療録記載状況を週報として病院長に報告していることや、退院患者の診療録を量的・質的ともに監査していること、手術台帳に基づき抜け漏れなく侵襲のある医療行為に関する説明内容を項目立てて監査していることなど、診療録監査は高いレベルに維持されていることを確認しました。なお、死亡退院患者のレビューについて詳細に記載されている一方、その作成にかなりの負荷がかかっているものと推測され、簡潔に記載するなど改善の余地があるものと考えられます。改善された運用が現場に定着し、監査結果のフィードバックと相俟って患者家族への説明内容や記録がさらに充実することを期待します。

## ③救急医療・診療体制の充実

徳洲会グループが開催する日本救急医学会認定のICLSコースである2日間のTCLSコースが継続的に開催されていることを確認しました。修了者は多く、個々の急変対応能力が向上しているのみならず、チームとして急変患者の予後改善に貢献されること、急変前の予兆を察知してより早期の集中治療につなげられることを期待します。

## ④看護体制及び研修の充実

ヘルプコールという相互支援体制がとられ、その結果が部署ごとにまとめられて評価されていることを確認しました。患者の安全確保のみならず看護スタッフの満足度向上にも関わる素晴らしい取り組みであり、引き続き改善が図られ、その機能が充実することを期待します。一方、病院機能の充実により重症ならびに急激な病態の変化

を呈する患者も増加することが予想されます。各種バイタルサインの変化を鋭敏に察知して患者が急変する前に適切に対応する仕組みの構築には看護師の能力向上が不可欠です。すでに病院ならびに看護部は認定/専門/特定行為といった看護師の資格取得を支援されており、患者の急変早期対応システムの構築ならびに充実を期待します。

## (2) 安全文化調査、患者満足度調査

法人病院を対象とした医療における安全文化調査ならびに患者満足度調査が継続的に行われており、患者満足度調査結果をもとに食事メニューが一新され、喫食調査にて評価される予定であることを確認しました。9月には日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審されることも決まっており、改善活動が着実に進むことを期待します。

## (3) まとめ

令和7年3月21日に実施した医療安全業務監査に引き続き4回目の監査を行いました。病院長がリーダーシップを発揮し、神戸市の改善措置命令に対する改善計画スケジュールに沿って着実に活動が進み、医療安全管理体制が明らかに改善し、提供される医療が安全に拡大していることを確認しました。地域住民が病院に寄せる期待に十分応える日はそこまで来ているように思われます。しかし、改善活動には終わりはなく、職員全員がリーダーシップを発揮して患者安全向上に努めつづけられることを切に願います。また、人的資源の充実など病院職員の努力だけでは解決しがたい問題もあり、継続的な徳洲会グループの支援を願います。

以上